

寄贈図書リスト

- 星座で読み解く日本神話
 勝俣 隆, A5判, 293p, 1,900円, 大修館書店
- Spectroscopic Study of Cool Stars
 藤田良雄, A4判, 373p, 自費出版
- 僕らは星のかけら
 マーカス・チャウン 著, 糸川 洋訳, A5判, 286p, 2,300円, 無名舎
- 衝突天体の気象力学
 V. P. ストゥーロフ, V. N. ミルスキー, A. I. ピースルイ 著, 興石 肇・久保田弘敏 訳, A5判, 225p, 4,800円, 東海大学出版会
- アインシュタインの宿題
 福江 純, 四六判, 229p, 1,600円, 大和書房
- マンガ 手作りの宇宙
 横尾武夫 編, 四六判, 148p, 1,500円, 裳華房
- 不思議な銀河の物語
 谷口義明, 四六判, 148p, 1,500円, 裳華房
- 宇宙は自ら進化した
 リー・スモーリン 著, 野本陽代 訳, A5判, 501p, 2,800円, 日本放送出版協会

- 続ハッブル望遠鏡が見た宇宙
 野本陽代, 新書判, 198p, 940円, 岩波新書
- The Data Book of Astronomy
 Patrick Moore, B5判, 529p, £ 25.00, Institute of Physics Publishing
- 重力からみる地球
 藤本博巳, 友田好文, 四六判, 172p, 2,600円, 東京大学出版会
- 惑星気象学
 松田佳久, A5判, 204p, 4,200円, 東京大学出版会
- 人と交わり半世紀
 藤田良雄, A5判, 248p, 中央公論事業出版
- 天文台の電話番号
 長沢 工, 四六判, 272p, 1,800円, 地人書館
- The Sun from Space
 Kenneth R. Lang, B5判, 357p, 10,320円, Springer Verlag
- Percival Lowell
 David Strauss, B5判, 333p, \$ 45.00, Harvard University Press

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で geppou@asj.or.jp 宛、なお、原稿も必ず 0422-31-5487迄 Fax でお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

宇宙科学研究所次世代探査機研究センター
 教授

1. 教授 1名
2. (1) 宇宙探査センサー分野
 (2) 神奈川県相模原市
3. 宇宙探査センサー分野
4. 次世代探査機研究センター (探査機システム分野, 宇宙探査センサー分野の2部門相当) は、高精度の天文観測機器や探査機要素技術・システム技術の先行的研究を目的としている。今回公募の教授には宇宙探査センサー分野で主導的な役割を果たしていただくことを期待している。大学共同利用機関である本研究所の役割を理解し、共同利用諸計画の遂行にも積極的な役割を果たしていただく必要がある。
5. 決定後なるべく早期
7. (1) 略歴, (2) 研究歴, (3) 論文リスト及び主要論文別刷り, (4) 研究計画書, (5) 他薦の場合は推薦書2通, 自薦の場合は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2001年4月20日(金)必着
9. (1) 〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1
 宇宙科学研究所庶務課人事係

(2) 次世代探査機研究センター長 小林康徳

e-mail: ykobaya@pub.isas.ac.jp

10. 封筒の表に「次世代探査機研究センター教授人事応募(推薦)書類在中」と朱記し、書留にて郵送のこと。応募者に適任者がいない場合は決定を保留することがある。

理化学研究所平成 14 年度基礎科学特別研究員公募

1. 物理学, 化学, 生物科学, 医科学, 工学の各分野で, 理化学研究所で実施可能な研究。

5. (1) 着任時期: 平成 14(2002)年 4 月 1 日

6. 応募資格: 平成 14 年 4 月 1 日現在 35 歳未満で, 自然科学の博士号取得者又はこれと同等の能力を有すると認められる者。

※日本国に永住権を有さない外国人にあっては, 上記に加え次の条件を満たす者。①応募日現在に日本国に在住している者。②日本国の大学院博士課程を修了(見込を含む)し, 博士号を取得(見込を含む)の者。

● 応募要項頒布: 頒布開始は 4 月上旬予定。

応募要項の請求は, 下記 FAX 又は e-mail へ

①郵便番号, ②住所, ③氏名(漢字), ④氏名(カタカナ)を記入し, 送信すること。

※要項代は無料

8. 平成 13 年 5 月 31 日(木)必着

9. (2) 〒 351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1

理化学研究所総務部人事第 2 課基礎科学特別研究員担当

Tel: 048-467-9268 (直通) Fax: 048-463-3687

e-mail address : wakate@postman.riken.go.jp

11. 本件は当研究所予算の成立を前提としており, その事情により変更がありえる。

研究助成

財)天文学振興財団 平成 13 年度研究助成公募

当財団では, 国立天文台の事業支援等を通じて天文学の振興を図っており, 平成 13 年度の研究助成希望者を下記の要領で公募します。

平成 13 年 3 月 1 日

(財)天文学振興財団理事長 小平桂一

研究助成

a. 対象: 天文学に関する優れた研究活動を行おうとする個人又は団体の代表者, 原則として 35 才以下で,

特に科学研究費の申請資格のない方を推奨します。

b. 助成: 総額 200 万円とし, 助成件数は 1 ~ 2 件程度

1. 申込期限: 平成 13 年 4 月 30 日

2. 選考結果: 選考委員会で審査の上, 採択の可否については, 各申込期限の約 1 ヶ月後に文書で通知します。

3. 報告: 年度末に報告書を提出して頂きます。

4. 申請: 申請書は事務室あてに請求して下さい。

5. 問い合わせ先: (財)天文学振興財団 事務室

〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台内

Tel: 0422-34-8801 Fax: 0522-34-4053

その他

2001 年 4 月から, 総務省通信総合研究所は, 「独立行政法人通信総合研究所」として, 新しく生まれ変わります。

これからの通信総合研究所は, これまでの電波, 光の研究成果を基盤として, 情報通信に関する総合的な研究開発をおこない, 自律的で開かれた, 柔軟で競争的な, 活力と魅力ある世界有数の研究所を目指していきます。また, 研究活動及び業務活動を通して, 国民生活の質の向上と国際社会に貢献していきます。

通信総合研究所の主な研究分野

①次世代情報通信基盤技術の研究開発

②無線通信システム技術の研究開発

③電磁波計測・応用技術の研究開発

④情報通信基礎技術の研究

また, 研究所では常勤職員及び非常勤職員を募集しております。

問合せ先

〒 184-8795 小金井市貫井北町 4-2-1

総務省 通信総合研究所企画部企画課

Tel: 042-327-5392 e-mail: publicity@crl.go.jp

詳細は URL: <http://www.crl.go.jp/>

会務案内

【日本天文学会理事会 議事録】

日時：2001年1月13日(土)

11時00分～16時00分

場所：国立天文台 三鷹 講義室

出席者：

- (1) 旧理事 尾崎 家, 小山, 柴田, 大石, 紀伊, 立松, 有本, 上野, 吉川, 沢, 橋本, 山岡
出席者 13名 欠席者 大谷, 牧島
- (2) 新理事 田原, 唐牛, 松田, 郷田, 松原, 大橋, 茂山, 加藤, 松元, 黒田, 吉田, 山内
(大石, 立松, 上野各理事は新理事兼任)
出席者 12名 欠席者 なし

他に、長谷川哲夫天文研連委員、東條事務長が参加した。

議事に先立ち、尾崎前理事長より挨拶があり、その後署名人を選出

議長：田原博人

署名人：大石雅寿、郷田直輝

議事の経過及び結果

前回(2000年10月7日)の理事会議事録が大石庶務理事より報告され、承認された。

1. 2000年度事業報告について

2000年度事業報告について、大石庶務理事より説明が行われた。欧文研究報告の発行、春秋の年会、それぞれ4回開催された評議員会、理事会などに関する報告があり、質疑応答の後、承認された。

2. 2000年度収支決算報告について

2000年度収支決算報告について、立松会計理事より説明が行われた。特筆することとして、欧文研究報告の投稿数増加に伴う収入増などがあげられた。また、紀伊旧会計理事からも欧文研究報告関係の予算に関する補足説明があった。また、郷田庶務理事が監事の代理として、2001年1月10日に行われた監査についての報告を行った。

以上の報告に対して、議論の後、原案が承認された。また、監事から別途に提出された事業内容および会計に関するコメントが、郷田庶務理事から紹介され、議論されたのち、収支決算書での項目のたてかたなどの問題点を今後さらに検討していくこととなった。

3. 新入正会員の承認について

新入正会員の名簿が、大石庶務理事から紹介され、22名の入会が承認された。

4. 2001年春季年会の準備状況について

2001年春季年会の準備状況について、松元年会開催地理事から説明があった。会場数は、講演は7会場、ポスター発表は2会場であり、3月25日に公開講演会を行う。さらに、茂山年会理事から、講演申し込みは、446件、セッション数は、18件(ジュニアセッションを1件含む)との報告があった。また、吉川旧年会理事からジュニアセッションの申し込みが全部で12件であることが報告された。以上の報告に関して、質疑応答を行った。

5. 申し送り事項に関して

旧理事会からの申し送り事項として、下記のような議論があった。

(1) 年会実行方法の検討

年会実行方法の検討に関して、吉川旧年会理事から申し送り事項の説明があった。特に、1講演の時間を減らして、パラレルセッションの数を減らすという提案もあり、講演時間と口頭発表の数やパラレルセッションの数についての問題、他に、講演の質の向上、記者会見の内容などに関して、議論がなされた。その結果、年会実行委員会で講演時間の短縮などについてさらに検討を続けてもらうこととなった。また、学会記者会見の場で、林忠四郎賞受賞者に関しての報告を理事長から行うことが決定された。

(2) 天文普及活動機関の支援に関連して

ブラネタリウムなど天文普及活動機関の支援に関連して、加藤天文教育理事から天文教育委員会として、以下のような案を実施したい旨の報告があった。案としては、学会で、「一般向け講演会の講師紹介リスト」を用意し、科学館、ブラネタリウムなどの天文普及活動機関に情報を提供する。また、講師は、tennetを通じて、公募するという主旨のものである。これに関して質疑応答を行い、理事会として本案を支持すること、本案に沿ってまず試行し、今後さらに改良してゆくこと、tennetへ講師公募のアナウンスを流すことが承認された。

(3) 未納会費の徴収策について

未納会費の徴収策として会費の督促手数料を導入する案について立松会計理事が説明を行った。質疑応答の後、案を一部修正の上、督促手数料の導入が承認された。また、それにともない「会費に関する細則」を変更する必要がある、その案が提案されたが、詳細はさらに検討を続けることとなった。さらに、自動引き落とし優遇措置、学生正会員優遇措置に関しては、さらに検討を続けることとなった。また、会費の自動引き落としを全会員に課するかどうかについても、議論がなされたが、賛否両論があり、今後も検討を続けることとなった。

(4) PASJに関する問題について

PASJの製作・販売を委託していたUAPとの債権・債務関係のトラブルの経緯について、大石庶務理事が説明を行った。また、尾崎前理事長、有本旧PASJ理事、紀伊旧会計理事から補足説明があった。質疑応答がなされ、本問題の円満な解決のために今後、弁護士を通じて対応していくことが承認された。

(5) IAUアジア太平洋地域会議の日本開催について

IAUアジア太平洋地域会議の日本開催(2002年7月)について、長谷川哲夫天文研連委員より説明があり、天文研連と日本天文学会との共同開催としたい旨の提案があった。議論の後、共同開催を承認し、理事会より、上野宗孝天文月報理事をLOCメンバーに推薦することが決定した。

6. その他

(1) 年会実行委員の追加について

年会実行委員追加に関して茂山年会理事より提案があり、電子メール申し込み受け付け担当として、鈴木知治氏に委員になってもらうことを承認した。

(2) 科学者の意識調査について

UFOに関する科学者の意識調査を学術的目的として日本天文学会正会員に対して行いたいので、理事会のconsentが欲しいとの手紙が、寿岳潤氏(他2名の連名)より理事会にあったことが大石庶務理事会から紹介された。議論の後、個人的に調査されることは問題ないが、学会としては全く関与しない旨の方針が了承され、寿岳氏らには松田副理事長より返答することとなった。

(3) 日本天文学会の汎用JPドメイン名について

日本天文学会の汎用JPドメイン名として「日本天文学会.jp」を登録する件について大石庶務理事より説明があり承認された。また、理事会の意向として「天文学会.jp」も登録することが要請され、技術的に可能であるならば「天文学会.jp」も登録申請することとなった。

(4) 新賞の制定について

天体発見以外の大きな貢献に対して授与される新たな賞を制定することが、天体発見賞選考委員会検討中であることが山岡旧年会開催地理事(天体発見賞選考委員長)から報告があり、質疑応答の後、次回の理事会に案を提出してもらうことになった。

(5) 次回理事会の予定について次回理事会の予定を以下のように決定した。

3月28日(水)

2001年2月2日

議長 田原博人 印
署名人 大石雅寿 印
署名人 郷田直輝 印

【日本天文学会評議員会 議事録】

日時：2001年1月27日(土)

11時30分～16時00分

場所：国立天文台 三鷹 講義室

出席者：池内、井上、奥田、海部、加藤、木下、高津、小杉、小山、佐藤(勝)、須藤、松田、吉田

以上13名

欠席者：家、石黒、上野、岡村、小平、佐藤(修)、鈴木、高原、谷口、中村、野本、長谷川、林、福江、福島、観山、渡部 以上17名

有効委任状提出者：小平、高原、谷口、野本、長谷川、林 以上6名。

他に理事会から田原理事長、唐牛副理事長、大石理事、郷田理事、立松理事、松原理事、および、有本PASJ編集委員、山岡天体発見賞選考委員会委員長、中井研究奨励賞選考委員会委員長、東條事務長が出席。議事に先立ち、議長に井上 一氏を、署名人に奥田治之氏、海部宣男氏を選出した。

議事の経過及び結果

前回(2000年10月6日)の評議員会議事録が報告され、承認された。

1. 2000年度早川幸男基金とIAU京都総会記念基金の選考結果の報告

大橋選考委員長に代わって、大石庶務理事より、2000年度早川幸男基金とIAU京都総会記念基金の選考結果について、各々報告があった。

2. 未収会費徴収方策について

未納会費の徴収策として会費の督促手数料を導入する件について、立松会計理事が説明を行った。理事会では基本方針は承認されているが、具体的な案の検討を継続してさらに深めていく旨の報告もあった。これに対して、できるだけ早く対策を実施することが望ましいこと、また実施に伴う細則変更に関しては定款との整合性に気を付けて行う必要があるなどの意見が出された。

3. IAUアジア太平洋地域会議の日本での開催について

天文研連と天文学会が共同主催するIAUアジア太平洋地域会議(2002年7月、日本にて開催)について、天文研連委員長でもある池内評議員より、事務局準備会が組織されつつあること、現在考えられている会議の規模等を含めた準備状況等が説明され、評議員諸氏に協力のお願いがあった。関連して、海部評議員より、会議を日本が引き受けるに至った経緯の補足説明があり、IAU内にこの会議の開催に責任を負う機関がないなどの不備があるとの指摘が

あった。

なお、天文研連との共同主催に関しては理事会（2001年1月13日）で決定済みであり、評議員会はこれを了承した。

4. 天体発見賞、林忠四郎賞、欧文報告論文賞、研究奨励賞の2000年度の各受賞者の決定

2001年度春季通常総会で表彰する天体発見賞、林忠四郎賞、欧文報告論文賞、研究奨励賞の受賞候補者がそれぞれ山岡天体発見賞選考委員会委員長、奥田林忠四郎賞選考委員会委員長、中井研究奨励賞選考委員会委員長より下記のように報告され、承認された。

天体発見賞：櫻井幸夫氏、長谷田勝美氏、
高見澤今朝雄氏、山本 稔氏、
青木昌勝氏、宇都宮章吾氏、
金津和義氏

天体発見功労賞：門田健一氏、杉江 淳氏

林 忠四郎賞：稲谷順司氏、野口 卓氏（高感度ミリ波サブミリ波検出器の開発）

欧文報告論文賞：深沢泰司氏他7名

ASCA Measurements of Silicon and
Iron Abundances in the Intracluster
Medium PASJ, vol. 50, pp. 187 -
193(1998)

研究奨励賞：山内茂雄氏（「あすか」衛星を用いたX線領域での銀河面サーベイ研究）

また、奥田林忠四郎賞選考委員会委員長より、推薦件数を増やす方策として、選考委員会で検討された以下のような案の紹介があった。

林忠四郎賞に関しては、推薦件数が極端に少ない場合、締めきり後でも一定期間選考委員会からの追加の推薦を受ける機会を設けること、欧文報告論文賞に関しては、内規に定めてあるように、欧文報告編集委員会に独自の推薦を依頼する。

この案に対して議論を行った後、欧文報告論文賞に関して、欧文報告編集委員会に独自の推薦を複数出すよう依頼する件が承認された。また、両賞に関しては、推薦者の負担を軽減して多くの推薦が出るようにするために、推薦・審査形式の見直しを今後の選考委員会に考えてもらうことが承認された。また、新たな推薦・審査形式の具体例として、第一段階では簡単な書類の提出のみとすること、そしてその中から選抜された候補者の推薦者にも、詳細な資料を用意してもらうといった案が意見として出された。

5. 欧文報告論文賞内規および研究奨励賞内規変更に関して

欧文報告論文賞内規および研究奨励賞内規に書かれている受賞資格はいずれも3年であるが、3年で

は論文や研究内容の評価が定まっていない場合が多いという指摘がされ、5年と変更することについて議論された。その結果、以下のように内規を修正することが議決された。

○日本天文学会欧文報告論文賞内規第1条 日本天文学会欧文報告に、原則として過去5年間以内に掲載された論文の中から、独創的で天文学分野に寄与の大きい、特に優れた論文の著者に対し、日本天文学会欧文報告論文賞を授与する。

○日本天文学会研究奨励賞内規第2条 日本天文学会正会員で、最近5年間における天文学への寄与が顕著となる者。

また、「日本天文学会定款」に掲載の研究奨励賞内規には「[注]日程」の注書きが入っているが、この注書きが入った経緯を確認することとなった。いずれにせよ、この箇所を削除する提案が出され、議論したのち、削除することが議決された。

6. 2000年度事業報告

2000年度事業報告について、大石庶務理事より説明が行われ、質疑応答の後、承認された。

7. 2000年度収支決算書報告および監査報告

2000年度収支決算報告について立松会計理事より説明が行われた。また、学会監事である小杉評議員より監査報告について説明が行われた。質疑応答の後、収支決算報告・監査報告がともに承認された。また、小杉評議員より、監事から理事会に別途に提出された事業内容および会計に関するコメントに関して説明があった。

8. PASJとUAP間に生じている紛争について

PASJの製作・販売を委託していたUAPから、支払う必要のない極めて多額の請求が来ており、債権・債務関係の紛争が生じている件の経緯について、大石庶務理事および有本PASJ編集委員から説明があった。また本問題の解決のために、理事会としては、弁護士を通じて断固たる態度で対応していく方針である旨の報告が行われた。質疑応答の後、評議員会も理事会の方針を支持していくことが承認された。また、今回のトラブルの経過など整理し、今後の運営を進める上での参考とすることとした。

9. その他

(1) 新しい賞の設定について

大学院生およびポスドクを対象とした研究奨励的な賞、および、女性研究者を対象とした賞を天文学会において新たに設ける案が提案され、議論された。その結果、賞の制定に向けて今後理事会で検討することとなった。

(2) 不適切な年会講演申し込みに関して

加藤評議員より、年会講演申し込みの際にアブストラクトが1行程度しか書いていない、低レベルの

ものが提出されているという指摘があり、これに関して意見交換を行った。また、現在でも年会実行委員長には不適切な年会申し込みを拒絶する権限があることを再確認した。さらに、会員に注意を喚起するため、総会等の場で広く周知を計るよう理事会に依頼した。

(3) 名誉会員について

名誉会員のありかたについて、意見交換を行った。

(4) 次回評議員会について

次回評議員会の予定を以下のように決定した。

3月27日(火)

2001年2月21日

議長 井上 一 印

署名人 奥田治之 印

署名人 海部宣男 印

と。渡航費見積金額は航空運賃を記入して下さい(保険料, 出入国税等は含めない)。

②論文リストを含む研究業績

③観測については、観測割当通知および観測提案の写しか、それに準ずるもの

④国際共同研究については、渡航先の招聘状および研究計画の概要

⑤研究集会参加については、当該研究会開催の主旨を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与(口頭発表等)を証明するもの

⑥大学院生の場合、研究指導者の意見書

⑦航空運賃の見積書。渡航後の場合は領収書のコピーを添付する。

⑧関連研究論文の写し(一編)

5. 応募締切: 2001年6月10日必着

6. 決定時期: 2001年6月下旬

7. 応募書類送付先:

〒181-8588

東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内 日本天文学会

早川基金募集係

*早川基金内規(社団法人に日本天文学会定款参照)による援助対象資格は「日本天文学会正会員で、原則として35歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費(滞在費を除く)の援助を受けない者。」です。

◎2001年はこの後、9月10日締め切りで2001年10~12月出發分の募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

◎援助者には、1,200字以内の帰国報告書と写真があれば提出をお願いします。これは天文月報に掲載を予定しています。

日本天文学会 早川幸男基金への寄付のお知らせ
(若手海外学術研究援助基金)

2001年2月22日に、(社)日本天文学会会員の佐藤明達氏より当基金へ500万円のご寄付を頂きました。

佐藤明達氏に御礼申し上げますと共に会員の皆様にお知らせ致します。
社団法人 日本天文学会
理事長 田原博人

日本天文学会早川幸男基金受給者募集要項

日本天文学会 早川幸男基金(若手海外学術研究援助基金)内規*に基づき、海外学術研究に対して援助を希望する者を募集(2001年度第3期)致します。

1. 援助金総額 年間270万円(2001年度予算)
2. 援助件数 年間数件程度
3. 募集対象期間 2001年7月1日~9月30日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わず、すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類(少なくともコピーの分はA4紙に統一すること)

原本1部、コピー5部。

書類(特にコピーの分)に不備があると審査段階で不利益を被る恐れがありますのでご注意ください。

①応募用カバーシート(第94巻4号193頁の応募用紙をA4に拡大コピーして使用する)。なお、渡航目的と応募者の研究内容との関連は詳しく書くこ

訃報 小田 稔氏

本会正会員 小田 稔氏は、去る3月1日午後3時、東京都内の病院にて逝去されました(享年78歳)。謹んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせいたします。

早川基金応募カバーシート

(本頁をA4に拡大コピー・記入して、応募用紙の最初に添付して下さい)

ふりがな 氏名	(会員番号：)		生年月日	19 年 月 日 (歳)
所 属			身 分	大学院 (修士・博士) 課程 年生
援助希望 の内容	(観測・国際共同研究・国際研究集会) その他 []			研究生・学振 (PD・DC)
渡航期日	年 月 日～ 年 月 日			(常勤・非常勤) 職員 [職名：]
渡航期間：	渡航場所		渡航費見積金額： 円	
研究略歴				
渡航歴および旅費の出所：				
渡航の主旨：				
国際研究集会についての寄与：1. 口頭発表, 2. ポスター, 3. その他 []				
連 絡 先			TEL	FAX
			E-mail	

編集後記

新編集委員より

編集委員内で行った「21世紀の天文学を考える」座談会での重要な結論のひとつ——21世紀以降も人間の学術研究活動を継続するために、まずは人類の宇宙空間への定常的進出を果たすべし。地球の重力から解放されて初めて、真の意味での人類の進化が始まる。人間が地球上で使える時間は残り僅かであろうが、一旦宇宙空間に出てしまえば時間はたっぷりある。学術研究はその後にゆっくりと始めれば良い。——うーむ、真理だ。(伊藤孝士)

本年より、月報編集委員をさせていただきます。昨年までは、重力波関連の仕事、本年からは電波関連の仕事を行っています。観測装置等について、力を発揮出来ればと考えていますので、宜しくお願いいたします。(上田暁俊)

編集の仕事ははじめてで、分からないことも多いですが、学会の方や、他の編集委員の方いろいろ教えていただきながらお手伝いしていきたいと思えます。よろしくお願いします。(大石奈緒子)

京都大学の太田です。関東在住ではありませんのであまり仕事はできませんが、月報編集委員関西駐在員ということでネタ集めに期待されているのだらうと思っています。西日本の皆様、何かネタになりそうな話がありましたら是非教えて下さい！(太田耕司)

早いもので、天文月報の編集に携わって3年目に突入しました。過去2年間で、雑誌編集のたのしさと、原稿在庫がないときの苦しさを共に味わいました(後者の方が多い?)が、無事発行されるまでのスリリングな体験に、いつしかはまっているようです。21世紀の月報を学会員の皆さまと共につくりあげていきたいものです。(小野智子)

いただいた原稿を最初に読めるというのは楽しいものです。またほちほちやります。(斎藤芳隆)

月報編集委員も3年目になりました。最近では身近な人たちから記事を取り尽くした感があり、新しい記事がなかなか手に入りません。困りました。でもメゲずに頑張ります。(土橋一仁)

——一年前、天文月報の編集委員となるのと時を同じくして職場が変わり、片道2時間の長距離通勤となりました。この憂鬱な通勤時間を、充実した時間に変えてくれるのが天文月報です。なんとってこの薄さの中に、豊富な知識と情報!! また、2年間編集委員として関わることとなりました。より通勤時間を充実させるべく、日夜努力する所存です。よろしくお願ひします。(内藤統也)

国立天文台の藤田です。このたび編集委員の大役をおおせつかいました。編集という作業は初めてなので、右も左もわかりませんが、少しずつ慣れていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。(藤田 裕)

人材に恵まれているというのは、現在の編集委員会のごとでしょう。二期続けて素晴らしい編集委員のメンバーとDTP担当の峯尾さん、事務局の山崎さんと盤石の体制です。これに皆様の素晴らしい原稿が集まれば天文月報は左団扇です。(上野宗孝)

編集委員 上野宗孝(編集長)、伊藤孝士、上田暁俊、大石奈緒子、太田耕司、小野智子、斎藤芳隆、土橋一仁、内藤統也、藤田 裕			
平成 13年 3月 20日	発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1	国立天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12		啓文堂 松本印刷
定価 700円(本体 667円)	発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1	国立天文台内	社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359(事務室)	/ 0422-31-5488(月報・欧文編集)	Fax: 0422-31-5487	振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト	http://www.asj.or.jp/	月報編集 e-mail: gcppou@asj.or.jp	DTP: 峯尾由紀子